

「“エシカル消費”と“食品ロス削減”で未来を変える！」議事要旨

(開催要領)

- 1.開催日時: 令和2年 12月3日(木)14:00～15:53
- 2.場 所: テレビ愛知株式会社
- 3.登壇者:
消費者庁 審議官 片岡進
NPO 法人フェアトレード名古屋ネットワーク 理事 原田さとみ
飛騨産業株式会社 取締役営業企画室長 森野敦
椋山女学園大学 現代マネジメント学部 教授 東珠実
株式会社ミツカンホールディングス 執行役員 石垣浩司
愛知工業大学 経営学部経営学科 教授 小林富雄

(プログラム)

1. 開会挨拶及び施策説明 「with コロナ時代の消費者行政」片岡進
2. 第1部講演①「世界に優しく、地域に楽しく、自分に美しく、
フェアトレードタウンで、エシカル消費」原田さとみ
3. 第1部講演②「森と歩む」森野敦
4. 第2部パネルディスカッション「地域における取組とエシカル消費・食品ロス削減」
ファシリテーター 東珠実
パネリスト 石垣浩司/小林富雄
5. 閉会挨拶 片岡進

* 敬称略・順不同

1. 開会挨拶及び施策説明「with コロナ時代の消費者行政」

消費者庁では、消費者と事業者が協働して取り組むべき施策課題の対応として、今回のテーマであるエシカル消費、食品ロスの削減に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、まさに消費者の意識や行動の変化を促すきっかけになったのではないかと考えています。自分の消費が社会・世界とつながっており、未来や他者のための行動が最終的には自分に返ってくることを、多くの方が体感したのではないのでしょうか。これは消費者庁が、啓発に取り組んでいる「エシカル消費」と同じ方向を目指しているものではないかと思っています。

本日のシンポジウムでは「エシカル消費」と並んで「食品ロスの削減」もテーマとなっています。食品ロスの削減もエシカル消費につながる行動の一つです。愛知県や岐阜県などの先進的な取組を共有することで、全国津々浦々にエシカル消費、食品ロス削減の取組が

広がっていくことを期待しています。

2. 第1部講演①

「世界に優しく、地域に楽しく、自分に美しくフェアトレードタウンで、エシカル消費」

フェアトレードとは、開発途上国の原料や製品を適正な価格で、継続的に購入することにより、生産者の生活改善と自立を目指していくものです。名古屋市は、全国で2番目にフェアトレードを町ぐるみで推進するフェアトレードタウンに認定されました。この取組を通じて、交流の促進や賑わいの創出にもつながっています。

名古屋市ではエシカル消費を進める活動も10年近く続いています。フェアトレードタウン名古屋で、一人一人が物事の背景を知って、選んで買うというエシカル消費を推進することで、未来を少しずつ変え、私たちのために優しくできるといいなと思っています。

3. 第1部講演②「森と歩む」

飛騨産業は、森からの恵みである木材を使って家具を作っているメーカーですから、森の保全を進めるということを考えています。

現在、日本の国土に植わっている木のおよそ13%が杉であると言われています。

杉は、柔らかく節が多いというところが家具作りに向いていません。

飛騨産業では、圧縮をして硬くするという技術を開発し、地元の杉で新しい家具のブランドを作り上げました。地元の杉を伐採して工場に持ち込んで圧縮をして椅子を作って納品することで、本当に地産地消ということにつながるのではないかと考えています。

4. 第2部パネルディスカッション

「地域における取組とエシカル消費・食品ロス削減」

①東

コロナ時代の新しい日常では、地域の応援につながる買い物が、エシカル消費につながりません。愛知県では、このエシカル消費の普及の取組が非常に活発に行われています。

②石垣

エシカル消費に取り組まない企業は存続できません。それが事業活動そのものを伸ばしていくと考えています。その活動として食の全部を新しく考え直した新しいブランドを立ち上げました。

③小林

ドギーバッグ普及委員会で、飲食店で食べ残したものを持ち帰ろうという運動をしています。学生たちと一緒に持ち帰りに協力してくれる飲食店にステッカーを貼る活動もしています。

・ディスカッションテーマ1「地域性を生かしたアイデアとは？」

①石垣

日本らしいとか愛知県らしいフードテック、ものづくり、食の技術革新が必要だろうと思っています。

②東

エシカルな商品というのは、その商品の背景を知ることを選択するという行動に結びつきやすいので、地域をベースにしながら、出回っているモノとかサービスについて、よく知ることがとても大事です。

③小林

愛知県は好きだと言えるというのがまずファーストステップで、キーワードとして幸せ感とかそういうものが入ってくるんじゃないかと思いました。

・ディスカッションテーマ2「持続可能な取組は？」

①石垣

無理をしないことだと思います。食品でいえば、「おいしいから食べる」ということが基本にあって、おいしいものを食べていることが自分の体にもなり、環境にもよい、というものを食品メーカーは作っていく必要があると思うし、これがサステナブルだと私は思っています。

②小林

ただエシカルなだけではダメです。やはりとても綺麗であるとか、その人の感性にマッチするとか、そういう視点がとても大事です。

③東

コミュニティの良さを活かしながら、エシカル消費や食品ロス削減に取り組んでいく、そして、自分の生き方やライフスタイルの一つとしてエシカル消費・食品ロス削減が見つめられるといいのではないかと思います。

5. 閉会挨拶

本日は消費者庁のライブシンポジウムをご視聴いただきまして誠にありがとうございました。

フェアトレードの取組やドギーバッグの普及の取組など、多種多様な取組が行われているということに頭が下がる思いですし、大変心強く思いました。他方で、持ち帰りをするときには消費者も責任を持って持ち帰るといったお話や望むべき自分像を持つことが大事であるといったお話など、新しい消費者教育の課題を突き付けられたような思いがいたします。

今日のテーマは、エシカル消費と食品ロス削減で未来を創ろうということですが、今日のシン

ポジウム風に言えば無理のない幸せな未来を創ろうということだと思います。皆様とともに我々も取り組んで参りたいと思っています。

以上